

1 a 確保
b 地力
c 発展

2 「買るいる
3 自給自足
4 自然を利

5 I イ II ア III エ (完答)
6 I 使用 II 交換 (完答)

7 a 利潤 b 成長
8 (記述題)
9 エ (完答)

10 I 資本主義的食料システム II 産業革命

2 1 a 仕入 (れ)
b 忠誠
c 平均

2 I A ア B ア C イ II ウ 3 ウ 4 I おるん II ビるい (完答)

5 そうしたら 6 (記述題) 7 (記述題) 8 おねるもの (完答)

9 I わたるない II きつるれる 10 X ウ Y エ (完答)

1 8 人や地球に負担をかけてでも過剰や不足、不健康をつくりだしたほうが、欲望を生み、お金が動くことになるから。
(同意可)

2 6 子どもの気持ちに寄り添うやさしさがありつつ、人として言うべきことは毅然として伝える強さを持った人物。
(同意可)

7 のは自分以外もみな 犬と飼い主が共に過ごした思い出
を共有し、互いを思い合っている
同じだということ。
(同意可)

「配点」	1	1	1
	8	1	5
その他	2	2	1
	6	7	2
	各4点	各6点	各2点
	×14	×3	×13
	56	18	26
	点	点	点

①
1 a 「確保」は「確」の字形に注意する。画数の異なる書き方は減点対象となる学校が多いことも念頭に置き、正確に書こう。b 「地力」は言葉として見慣れないものであったかもしれないが、前後の文脈から判断してほしい。その意味で、「知力」が入らないことも明らかだろう。c 「発展」は「展」の字形に注意。受験生ならばたびたび経験してきた書き取りだと思うが、だからこそ確実に正解したいところである。

2 直前の段落全体をさしているとも言えるが、「買い食い」というまとめた言い方を見定められるとよい。
3 語句の知識を問うているとも言えるが、文章・文脈の中で使えるようにしておきたい。
4 「みんなで管理して利用する」「共有財産」を利用する際の「ルール」である。指針無くやみくもに探すのではなく、傍線部を含む一文や設問の言い回しに注意を払っていけばすぐに見つかる。
5 「すると」には「だから」のような因果関係の含みはほとんどない。同じ順接でも違いはあるのでおさえておこう。
6 直後で説明されている対比を確実におさえる。最も端的な表現として「使用価値」と「交換価値」がある。
7 「：を求め(る)」、「産業や政府は：を目指す」という言い回し(コロケーション)や、それをまとめて「資本主義経済のカラー」と述べていることから判断する。
8 傍線部の要素として、①「経済成長をGDPで計っていると」、②「人や地球が不健康になればなるほど」、③「『経済成長』することになる」がある。①から前行を見て「国のGDPには：お金が動けば経済成長として：計上される」を確認する。その上で、②が「欲望を生み」、③につながると書けばよいだろう。
9 字面では複数の解釈を許す表現の場合には、文脈から最適なものを決定することになる。ここに至るまでの、とくに直前二段落をふまえて、筆者が無制限な利潤の追求に対して懐疑的であることをつかんでおきたい。
10 問いかけと答えに注目するのは当然であるが、ある種の問いかけはあくまで提題表現であって、答えそのものは自明である。そういうときにはその問いかけ自体も話題の把握という意味で重要ではあるが、それにとどまらず文章全体の論旨をつかむことを重視したい。すなわち、論拠と主張までを正しくおさえ、その文章の理路を明らかにすることが肝要である。「現在では：」および「結果として現在では：」から始まる、現状への診断が示される段落はとくに要注意の箇所であると言えよう。

②
1 a 「仕入(れ)」は、「商品などを買う付けること」。b 「忠誠」は、小6配当の漢字を含むが、入試に向けて確実におさえておきたいものである。c 「平均」は「均」の字形、とくに点の数・向きに注意してほしい。

2 I アは隠喩、イは直喩である。
II 消去法でよいが、逐一照らし合わせていくこと。「ビー玉」や「洗たく機にほうりこまれた洋服」のように身近なものばかりが取り上げられているが、それによって子どもの目から見た世界であることを感じさせる。

3 ふさわしくないものを選ぶことに注意。もちろんその日の気候・天候を述べているのだが、のちに問10でも取り上げるように、重ね合わせを想定して心理を描いているとも考えられる。その場合、どのような場面なのかを確かめて、選択肢と照らし合わせていこう。
4 i-i線Bの箇所などから、人と話すのが苦手な少女であることが想定される。であれば、「I」には伝える相手、「II」には話す内容が入りそうだと見当がつく。IIはかなり遠いが、「と伝える」とあるので、いわゆる直接話法の発言そのものを候補に入れる。

5 後続部分を読み進める。「だって……そうしたら……」とあるので、理由・事情がうかがえるとあってよい箇所だろう。

6 「目線をあわせる」は、聞き手に寄り添う姿勢、「きつぱりと」は、毅然とした態度を表している。性格・人物像を問われた際の抽象化の仕方、あるいは語彙のレパートリーは訓練で培っておきたい能力である。

7 解答らんに「同じだということ。」があるので、「何が」「どう」にあたる部分を補いたいのだとわかる。やや字数指定が厳しいがまとめる練習をしておこう。

8 直前からの流れで考えれば「おねえさんだって、ビリーを好きでたいせつで……それを、かんとんにひとにあげるなんてこと、ぜったいにできない」にあたる内容であろう。後続部にも同様のことがくり返されているので、その中で字数に合うものを探る。「知らなくても、それを想像してみることはできるのに」という箇所が出てくるので、「それ」の指示内容を採ればよい。

9 ——線⑧の前後をうまく生かす。今回は穴埋め形式としたが、記述題でもうまく本文中の表現を利用・編集してまとめられるようになってほしい。

10 意味の階層が三層になっている。ひとつめは文字通り天候の状態。しかし、小説では「書かなくてもよい」天候をわざわざ書き込んでいることに注目して重ね合わせを取るのには常套手段である。ふたつめに「春の前には雷が：」という部分をこのときの状況と重ねて、雷Ⅱ試練、春Ⅱ解決ととる層。さらに三つめとして、——線Yでは直後に「もしかして、天国のレオンが：」とあるので、客観的に見て想像力の欠如した幼稚な行動を取った自分への嫌悪を「レオンからの叱責」と表現していると考えられる。